

## (11) 九州



九州地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更 )

## 前回からの主要変更点

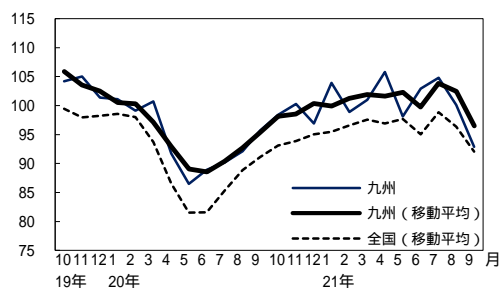
	前回(令和3年8月)	今回(令和3年12月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる	
鉱工業生産	持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる	
個人消費	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している	

## 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

7 - 9月期の鉱工業生産は、輸送機械は普通乗用車等が減少したこと、電気・情報通信機械は電気照明器具等が減少したこと等により、前期比2.9%減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値ウェイト	生産				
		4 - 6月期	7 - 9月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	13.6	6.4	1.8	6.2	7.2	1.5
輸送機械	13.5	6.1	23.1	5.8	14.1	37.1
食料品	12.2	0.7	0.0	0.4	0.8	0.7
汎用・生産用・業務用機械	12.2	2.8	8.8	19.9	1.3	10.3
化学・石油石炭製品	10.0	3.8	2.5	1.6	0.6	6.9
鉱工業	100.0	1.0	2.9	1.8	4.5	7.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7 - 9月期は前期比0.8%減となった。月別にみると、7月は前月比0.5%増、8月は同2.7%減、9月は同0.3%増となった。

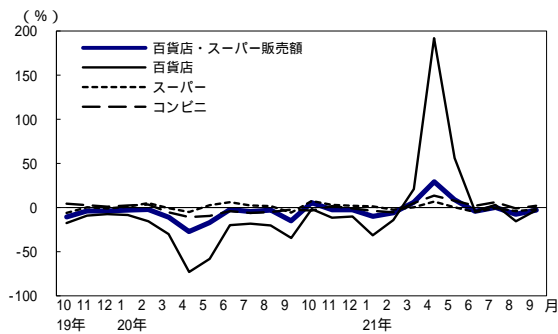
### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比3.4%減となった。月別にみると、7月は前年同月比0.1%増、8月は同7.5%減、9月は同3.0%減となった。

百貨店は、7 - 9月期は前年同期比4.5%減となった。

スーパーは、7 - 9月期は同2.2%減となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年7 - 9月	2021年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.8	0.5	2.7	0.3
百貨店・スーパー(*2)	3.4	0.1	7.5	3.0
百貨店(*3)	4.5	3.2	15.6	3.2
スーパー(*3)	2.2	0.7	4.1	1.9
コンビニ(*3)	2.3	6.1	1.1	1.9
乗用車(*4)	17.6	10.1	4.2	33.9
(季節調整値)(*4)	11.5	6.1	3.9	29.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

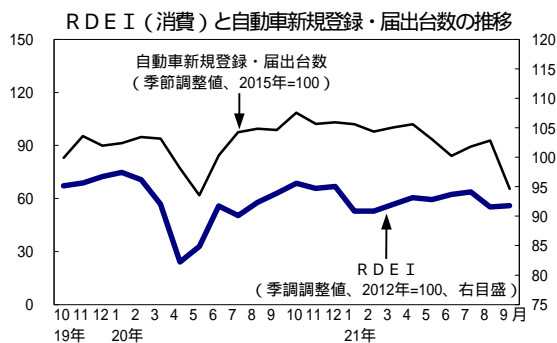
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

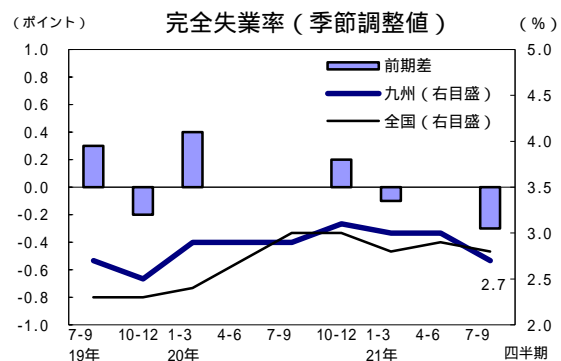
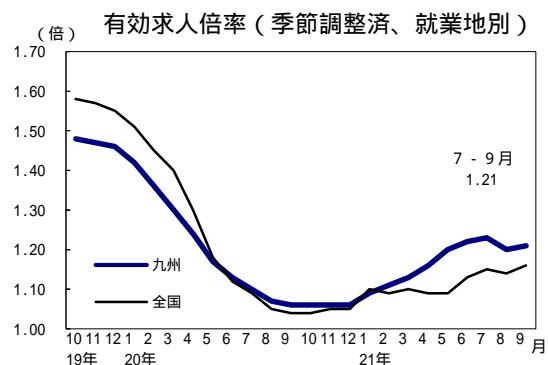
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年10月調査) 景気判断理由の概要

11. 九州

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	・今までは人流がなかったが、ここ数日は感染者がいなかったため、県外の観光客や帰省客が少しずつ来店し、来客数が増加している。市内の客の動きはほとんどないものの、居酒屋では少し景気が戻っている (高級レストラン)。
		・まん延防止等重点措置が解除となり、行動規制も緩くなったものの、客の慎重な行動は継続している。郊外での入出は戻っているようだが、客は、人混みには行かないようにしており、街中は敬遠されている (百貨店)。
		・メーカーの新車生産がコロナ禍と半導体不足により大幅な減産となっている。自動車販売店にとっては売れる商品がない状況であり、極端な売上不足に陥っている。大変厳しい経営状況が続いている (乗用車販売店)。
	企業動向関連	・緊急事態宣言が前月末で解除されたことにより、少しずつであるが受注量が増加している (広告代理店)。
		・需要はあるものの、生産が追いついていない。少しずつ回復しているが、まだ通常の生産量には足りていない (その他製造業 [産業廃棄物処理業])。
雇用関連	・新型コロナウイルスの影響で健康食品やプロテインの受注は好調であるが、原料の価格高騰が発生している。中国やベトナムのロックダウンの影響で原料が入手できない状況になっており、売価へ影響が出ている (輸送業)。	
	・新型コロナウイルスの第5波も落ち着き、街中にも人出が戻っている。県内の宿泊補助事業等もあり、広告でも旅行レジャー関連の出稿が復活し始めている (新聞社 [求人広告])。	
その他の特徴コメント	・現在も就職活動をしている学生が一定数いるが、求人依頼件数もあり、年間を通じた採用活動を行う企業も前年度と比較して増加している。また、2023年卒採用に向けたインターンシップを実施する企業も、前年度と比較して増加している (学校 [大学])。	
		：時短営業や外出自粛が長いだったが、感染対策がしっかりしているところを選んで客足が増えつつある (経営コンサルタント)。 ：規制が解除され、旅行や飲食関係が少しずつ良い方向に向かっているが、衣料品では、客は状況をみているのが実態である (衣料品専門店)。
先行き	家計動向関連	・ワクチンの接種率も高まり、新型コロナウイルスを抑えることができれば、年末に向けて景気は良くなる (商店街)。
		・新型コロナウイルスの感染拡大次第だが、コンビニエンスストアの使われ方は変化しないと考えている (コンビニ)。
	企業動向関連	・新型コロナウイルスの第6波の不安はあるが、これからの年末需要を含め、厳しい状態であった外食産業もある程度は動きが戻ってくる。冷凍食品メーカー向けも年末年始仕様やおせちの食材納品で期待ができ、量販店も年末に向けて動き始める。ただ、今まで順調だった工場生産が、研修実習生の入国制限により厳しい人手不足になり、状況が悪化している。戻りつつある販売を逃さないように、対策を講ずる必要がある (農林水産業)。
		・海外部品の供給不足による生産台数の制限が、引き続き行われる (輸送用機械器具製造業)。
	雇用関連	・新型コロナウイルスの新規感染者数減少により、宿泊業や飲食業が従業員を募集する動きが出ている (職業安定所)。
その他の特徴コメント	：第6波の不安もありつつ現状の回復状況が続けば、インバウンドは困難だが、イベントの開催や観光客の増加等、タクシー利用の期待要素は大きい (タクシー運転手)。 ：急激な変化よりも段階的な回復の方が現実的である (通信業)。	

( D I ) 現状・先行き判断D I (九州) の推移 (季節調整値)

